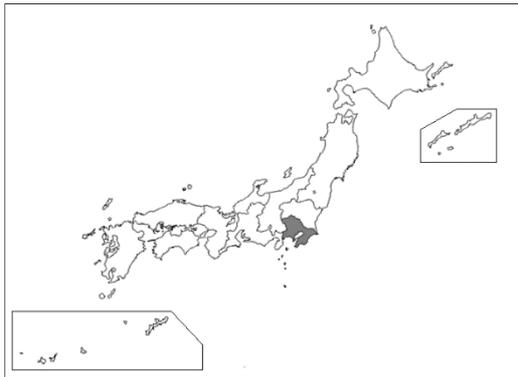


(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

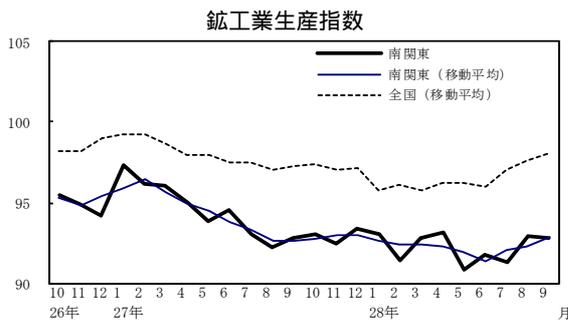
	前回 (平成 28 年 8 月)	今回 (平成 28 年 11 月)	
鉱工業生産	弱含み	おおむね横ばい	
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、足踏み	足踏み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

石油・石炭製品、化学、プラ製品は減少した。輸送機械は増加した。電子デバ、電気・情報通信も電力会社等の設備投資を背景に増加した。鉄鋼業、非鉄金属、金属製品も増加した。汎・生産・業務用機械工業は減少した。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)



	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	29.1	▲0.4	▲0.2	▲2.1	2.3	▲2.7
輸送機械	17.6	1.4	0.1	▲0.7	0.2	4.9
電子デバ、電気・情報通信	14.7	▲1.2	3.2	▲1.7	9.1	▲3.1
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	10.8	▲0.6	0.5	0.9	1.1	▲3.5
汎・生産・業務用機械	9.3	▲2.8	▲0.2	1.8	1.1	1.1
鉱工業	100.0	▲0.5	0.4	▲0.5	1.8	▲0.1

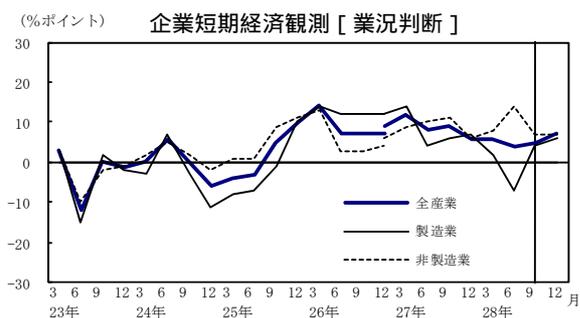
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7～9月期、9月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの。

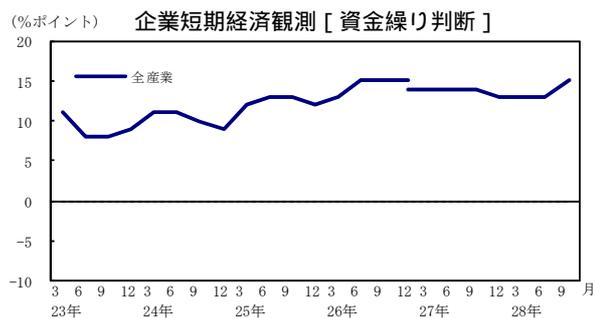
- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
 2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。
 直近月は、2か月平均。
 3. 南関東は内閣府にて算出。

(4) 南関東

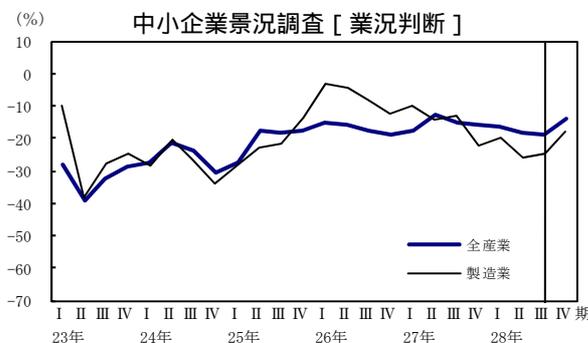
(2) 業況判断は「良い」超幅が横ばい、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。28年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行横浜支店管内。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行横浜支店管内。

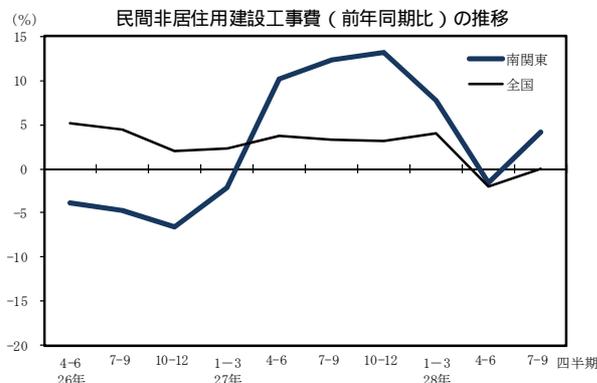


(備考) 「好轉」 - 「悪化」 回答者数構成比。28年IV期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「爆買い一服感から、化粧品容器の受注がなかなか回復しない。医療品容器も新旧モデルチェンジの狭間で生産調整に入り、減少傾向にある (プラスチック製品製造業)」等の回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年度計画
全産業	4.0	17.8 (▲4.5)
製造業	5.5	30.3 (▲3.4)
非製造業	2.0	0.1 (▲6.5)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。
日本銀行横浜支店管内。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は足踏みがみられる。

① 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.1%増、8月は同0.6%減、9月は同0.0%増となった。

② 百貨店・スーパー販売額

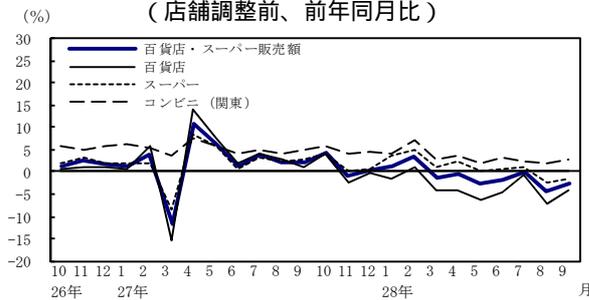
百貨店は、7月は衣料品の動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。8月は天候不順の影響や休日数が前年より1日少ないことなどもあり、衣料品、身の回り品、飲食料品の動きが不調だったこと等から、前年を下回った。9月も天候不順等から衣料品、身の回り品、家庭用品の動きが不調だったこと等から、前年を下回った。

スーパーは、衣料品、身の回り品や家庭用品等、全体的に動きが不調だったこと等から、前年を下回った。

③ 景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「10月に入り、前年と比べ気温の低下が早く、秋冬物の需要が高まり、来客数が増加している (衣料品専門店)」等「やや良くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	28年7-9月	28年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	▲0.3	0.1	▲0.6	0.0
百貨店・スーパー(*2)	▲2.2	0.1	▲4.4	▲2.8
百貨店(*2)	▲3.8	▲0.9	▲7.1	▲4.2
スーパー(*2)	▲1.1	1.0	▲2.6	▲1.7
コンビニ(*2)	2.4	2.5	2.0	2.8
乗用車(*3)	▲1.6	▲3.9	1.7	▲1.9
(季節調整値)(*3)	▲2.7	▲4.6	5.7	▲5.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

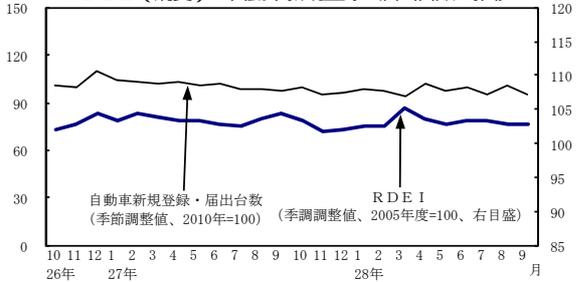
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパー及び百貨店、スーパーは関東経済産業局の東京圏 (埼玉、千葉、東京、神奈川) の値。

コンビニは、経済産業省の関東 (茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡) の値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

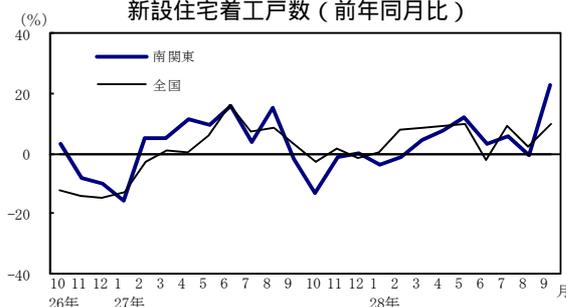


(2) 住宅建設は増加している。

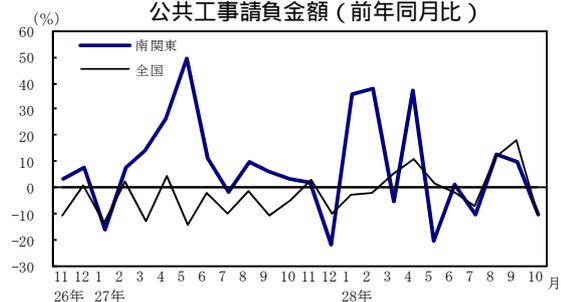
貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

新設住宅着工戸数 (前年同月比)



公共工事請負金額 (前年同月比)



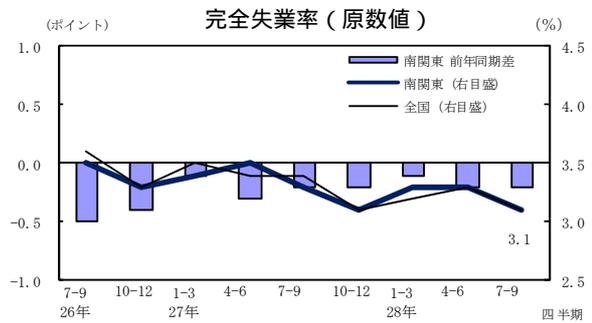
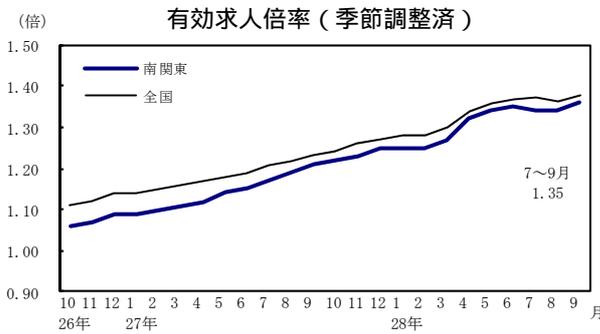
(4) 南関東

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[雇用関連(現状)]

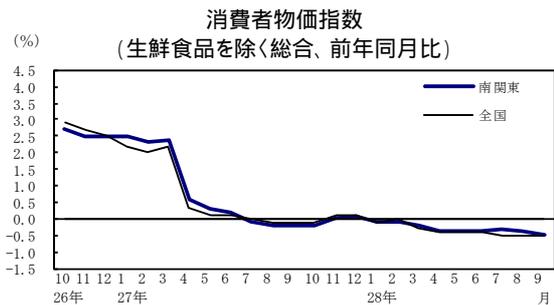
「3か月連続して月間有効求人数が前年同月比で減少している(職業安定所)」等の回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年10-12月	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
倒産件数	773	693	677	710	238
(前年比)	14.3	▲0.6	▲9.5	5.3	▲4.8
負債総額	4,220	1,464	984	1,130	460
(前年比)	118.7	▲29.5	▲32.0	▲58.5	32.1



(備考) 南関東は内閣府にて算出。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・天候がやや落ち着いてきているため、売上が多少増えている。これがずっと続いてもらえればありがたい(商店街)。

<先行き>

・今の経済環境では、ボーナス商戦に向けて消費マインドが改善される期待が持てない。お歳暮、クリスマス、年末、初商と商売規模が大きいだけに、影響の大きさが懸念される(百貨店)。

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

